hida
広報
ひだ
町木
第68号
肥田町
まちおこし推進協議会
H26.1.1発行

謹賀新年

自治会長　大村恭三

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年中は、自治会活動にご協力を賜り有難うございました。自治会の役員、町内各種団体役員、組長様には、大変にお世話になり厚く御礼申しあげます。

さて、近年は、地球環境の変化に伴う異常気象の発生が広域に広がり、地震、津波、洪水、突風、土砂災害の多発が見られます。日本でも昨年9月の台風18号の襲来では、各地に大きい被害をもたらしていますが、幸いにして私どもの町では厳しい被害は免れてはいますが、これからの私どもに、常々災害に対するしっかりとした心構えを持つべく警鐘を与えてくれたと受け止めています。

7月には、巡回市長室が肥田町公民館で、大久保市長をお迎えして開催され、改めて肥田町から市への当面の要望を再度説明いたし早期の対応をお願いしました次第です。また、まちづくり委員会よりの町民意向調査が実施され、これからの高齢化の進む町での自治会の活動の方向性の探索も求められましたが、町民皆様の丁寧なご意見、ご協力に感謝いたしております。住みよい町、活気のある町に少しでも前進出来ますよう役員会で今後の対応を併せて検討を続けております。

11月には、彦根市消防署南分署のご協力を仰ぎ、肥田町自警団員と共に、各家庭に備えられている消火器の使い方、防火用水からの放水の作業手順、町内にある消火栓からの放水などの訓練を町民参加で実施しました。参加し、訓練に進んでご協力いただきました皆さんには有難く感謝申しておりますが、もっと広く町内の皆様にこの機会を活用していただきたかったと思っています。「災害は忘れた頃にやって来る」最近は火災も見られなく有難いですが、熱い心構えは、より大切です。

町では、昼間は留守がちのご家庭が多く、在宅者は高齢者の方々が多くて、当然にお隣近所の方との助け合い、広く町内皆さんの協力が求められます。是非ともこれからの災害に対する訓練には全員参加のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

最後となりましたが、町民皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

おめでとうございます

寿

平成26年　元旦

益々のご発展をお祈り申し上げます。

（敬称略・順不同）

成人

平成5年生

大村健人
伊関紗紀
藤野茜
伊関創
持田政徳

還暦

昭和29年生

清水賀寿子
吉岡真理子
大城栄子
宮川和子

喜寿

昭和13年生

宮川統治
藤野俊雄
高瀬弘子

傘寿

昭和10年生

川松芳子
藤野英子
鹿島節子

卒寿

大正14年生

辻野茂
山岸長兵衛
宮川春男

平成26年 成人の日を迎えて

伊関　紗紀さん
（父 伊関 健一さん）

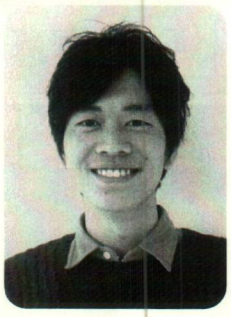
明けましておめでとうございます。

私はこれまで、多くの人と出会い、様々な経験をして来ました。そしてそれは、私をいろんな面から成長させてくれました。これからは、更に多くの出会いがあり、自分の世界も更に広がると思います。その中で自らアンテナを張り、積極的な決断と責任ある行動ができる大人になりたいと思います。

藤野　茜さん
（父 藤野 恵俊さん）

明けましておめでとうございます。

私は、これまで沢山の人たちに支えていただきました。特に家族には感謝しています。これからは、お世話になった人たちに恩返しが出来るように自立心を持ち、一人の成人として責任ある行動をとり、人に迷惑を掛けず、学業で得た知識を活かし、何事にもチャレンジ精神を忘れず挑戦し、社会に貢献させていただきたいと思っています。



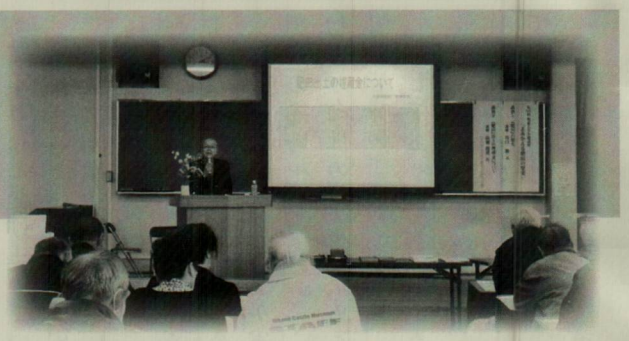
大村　健人さん
（母 大村 一美さん）

新年明けましておめでとうございます。

皆様のお蔭で健やかに二十歳を迎えられましたことに、感謝申しあげます。

これからは、社会の常識を身につけ、何事にも誠心誠意をもって努めて参りたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻下さいますようよろしくお願い申しあげます。

聖泉大学の第62回公開講座
「よみがえる肥田の歴史」を紹介



去る12月14日の午後、聖泉大学4階階段教室で、彦根城世界遺産登録推進専門員 谷口徹氏と肥田町崇徳寺住職 高瀬俊英氏から、従来語られていた「肥田の歴史」にプラスしてその後発見された埋蔵文化財資料をもとに、「よみがえる肥田の歴史」が紹介されました。

実物が会場に展示

受講者は約百名。会場には聖泉大学建設時に大学敷地（小字『フケ』）から発掘された二千年前の弥生式土器２点（壷と水差し）と、平安中期（992年）、室町初期（1371年）に埋蔵された貨幣の標本およびそれぞれの発掘時に書かれた古文書の実物が展示され受講者の眼を楽しませました。

映像で肥田の昔を解説

谷口氏は14枚のパワーポイントを用いて、専門的見地からくわしく、肥田の各時代を解説されました。北に荒神山があり、その右裾に向かって字曽川が琵琶湖に流れ、左裾に向かって愛知川—今は荒神山から離れ、はるか西で琵琶湖に注ぐこの川も、昔は荒神山の左裾に注いで流れていました。

昔は肥田等が先進地

近世以降は、彦根城を中心にこの界隈を考え勝ちですが、古代、中世は、断然、荒神山、字曽川流域、愛知川流域に囲まれた地域が先進地域であったことを、埋蔵文化財の発掘状況から結論付けられました。

貨幣の歴史と埋蔵金

高瀬報告は「肥田出土の埋蔵金」について。先ず日本の貨幣の歴史から話されました。日本は平安時代の中期（958年）から江戸時代のはじめ（1639年）の約670年間国産の貨幣は造られなかったので、主に中国（唐・宋・明）のお金＝渡来銭（銭＝銅銭）が輸入され使われました。古代日本も国産貨幣を中国に真似て造られましたが、物々交換の方が便利だったためか、使われませんでした。したがって埋蔵金の殆どは渡来銭—唐銭、宋銭でした。

肥田の埋蔵金の中身

肥田ではその銭が、江戸時代中期から明治の始めにかけて、小字「山王」付近から、４回も壷に入って出土したのです。うち２回は埋められた年が判明しており、また２回は壷にはいって出て来たお金の分量が判明しています。この頃の「山王」は小高い小山だったと言われています。

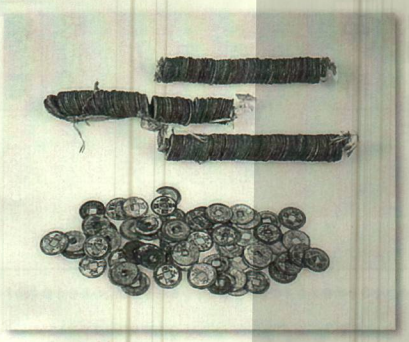
一回目　明和２年に発掘。彦根藩のお蔵の番人をしていた町人田中藤助の書いた日記に記されています（彦根械博物館）。三十貫文の古銭が出土。（現物はなし）・・・①

二回目　明治９年に発掘。応安４年（１３７１年）に埋蔵。３個の緡（さし）銭（百文ずつを紐で束ねる）とバラ銭少々（崇徳寺資料館で保管）。銭のはいっていた古壷（古信楽焼）は東京国立博物館にあることが判明しました。・・・②

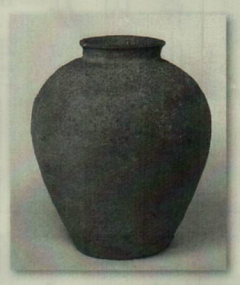
三回目　明治12年３月に発掘。・・・③

四回目　明治12年５月に発掘。・・・④

③、④は鹿島弘一家にその資料が保存されており、埋蔵古銭百五十金が出土。応和２年（992年）の埋蔵と書かれています。



▲出土銭
（崇徳寺資料館蔵）



▲出土銭入壷
（東京国立博物館蔵）

埋蔵金の埋蔵時のねうちは

三十貫文・・・一貫は銭一千文。玄米に換算して古代は一升七文。玄米一升の現価は七百円（今年の荒神山神符額）。一文は百円となり、一貫は十万円。三十貫は三百万円となります。

百五十金・・・秀吉の時代、金一両は銭四貫。百五十金、百五十両を４で割って37.5貫、一貫は十万円、37.5貫は三百七十五万円となります。

かなりの大金を誰が埋めたか

②の埋蔵年応安４年ごろは、肥田にはどんな人が住んでいたか。年貢を納め農業に従事していた肥田住民、40町の寺領をもつ崇徳寺のような社寺、家臣をもち始めた高野瀬氏などの地侍、肥田は延暦寺の荘園だったので、年貢を徴収する寺直属の荘官などでした。誰かが埋めたことになります。

④の資料には、応和２年の埋蔵者は肥田の代官（荘官）薩摩坊亮観ではないかと書かれています。

埋蔵の目的は何か

不明です。みなさんで考えてください。肥田は本当におもしろい歴史をもった町だったようです。

さいごに

④の資料によると、応和２年の埋蔵者亮観の系譜は、壬申の乱の敗者、大友皇子（弘文天皇）その第二皇子近江大領（郡長官）大友夜須麻呂が肥田に居住、その曾孫（ひまご）の肥田代官（荘官）が肥田彦人、この人が出家して薩摩坊眞観となり、肥田の鎮守山王祠をつくる。それから六代目を亮観という、とあります。

〈文責　高瀬〉

写真で見る 町の活動特集

11/23 自治会による防災訓練実施

今回は、市の消防局の指導の下、公民館前の防災用貯水からの放水の手順に始まり、家庭用消火器の使い方、また町に常設の消火栓からの放水に至る実地訓練を参加皆さんで体験学習の時間でした。高齢化の町での防災に意識の高まりを感じました。

10/30 福寿会 研修ツアー

京都市市民センターでの地震、強風の実体験もあり、消火訓練も併せて防災意識も高まりました。嵐山、天龍寺の散策も楽しみました。

純米酒「肥田城」誕生

彦根市肥田町のお米で仕込んだお酒です。農事組合法人「ファーム肥田」のオリジナルボトルです。醸造元は創業安政元年の清酒金亀、大星の㈱岡村本家です。